原　遺　跡　18

— 第31次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1201集

２０１３

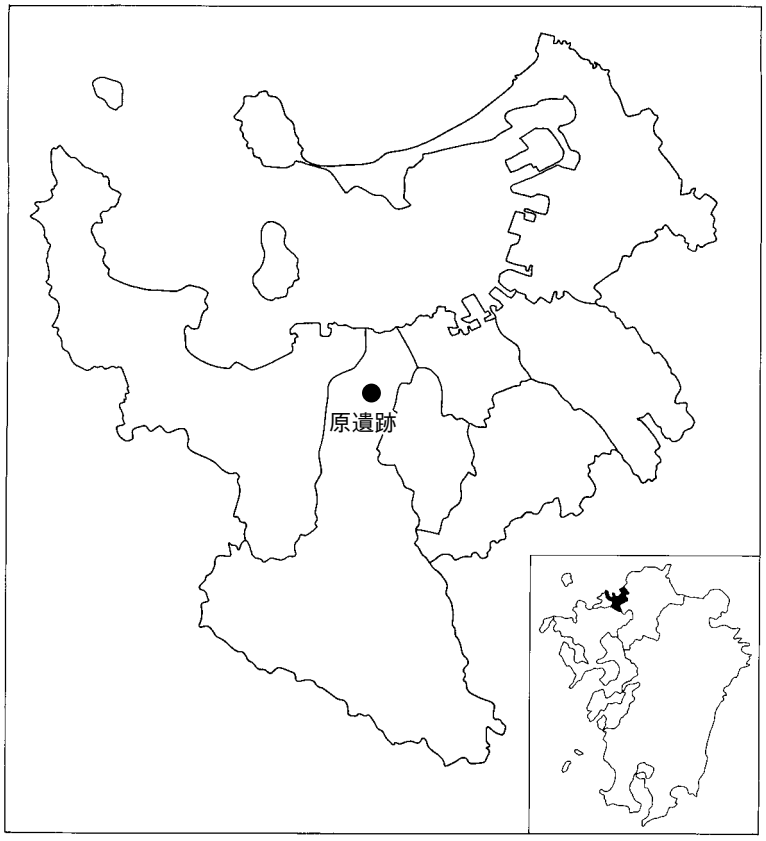
福 岡 市 教 育 委 員 会

原遺跡18 — 第31次調査報告 — 福岡市埋蔵文化財調査報告書第1201集 2013 福岡市教育委員会

原　遺　跡　18

―第31次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1201集



遺跡略号　HAA－３１
調査番号　１１３９

２０１３

福 岡 市 教 育 委 員 会

序

古くからさまざまな地域との文化交流を通じて発展を遂げてきた福岡市には、数多くの歴史的遺産があります。それらを保護し、後世へと伝えていくことはわれわれの義務であります。

しかし、近年の都市開発によって地下に埋もれた貴重な文化財が失われていることも事実です。本市では開発によりやむを得ず破壊されていく遺跡の記録保存を行い、広く公開するよう努めています。

本書は、共同住宅建設に伴い平成23年度に調査を実施した原遺跡第31次調査の成果を報告するものです。今回の調査では、弥生時代および中世～近世の遺構が確認されました。

今後、本書が文化財保護への理解を深める一助となるとともに、学術研究の資料としても活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の作成に至るまで、多大なご理解とご協力を賜りました関係者の方々に、心から謝意を表します。

平成25年3月22日

福岡市教育委員会
教育長　酒井　龍彦

例　言

1．本書は福岡市教育委員会が共同住宅建設に伴い、福岡市早良区原7丁目1190番1内において平成23年度に発掘調査を実施した原遺跡第31次調査の報告書である。
2．発掘調査および整理・報告書作成は、民間受託・国庫補助事業として実施した。
3．報告する調査の基本情報は下表のとおりである。
4．本書に掲載した遺構および遺物実測図の作成、写真撮影、挿図の製図は福薗が行った。
5．本書で用いた方位は、すべて磁北を示す。
6．本書に掲載した国土座標値は、世界測地系によるものである。
7．遺構の呼称は、掘立柱建物をSB、土坑をSK、溝をSD、ピットをSPと略号化した。
8．遺物の番号は通し番号とし、挿図と図版の遺物番号は一致する。
9．本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
10．本書の執筆および編集は、福薗が行った。

遺跡名	原遺跡	調査次数	31次	調査略号	HAA－31
調査番号	1139	分布地図図幅名	原82	遺跡登録番号	020311
申請地面積	2,890㎡	調査対象面積	966㎡	調査面積	830㎡
調査地	福岡市早良区原7丁目1190番1			事前審査番号	23-2-359
調査期間	平成24（2012）年1月23日～3月7日				

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに
１．調査に至る経緯…… 1
２．調査の組織…… 1

Ⅱ．遺跡の立地と環境…… 2

Ⅲ．調査の記録
１．概要…… 4
２．遺構と遺物…… 6
１）溝（SD）
２）掘立柱建物（SB）
３）土坑（SK）
４）その他の出土遺物
３．結語…… 8

挿　図　目　次

第１図　原遺跡と周辺遺跡（1/50,000）…… 2
第２図　原遺跡調査区位置図（1/6,000）…… 3
第３図　原遺跡第31次調査区位置図（1/1,000）…… 4
第４図　遺構配置図（1/200）…… 5
第５図　SB001 ～ 003実測図（1/60）…… 7
第６図　SK019・020実測図（1/40）およびSK019・その他の出土遺物実測図（1/3、1/1）…… 8

表　目　次

第１表　原遺跡発掘調査一覧…… 3

図　版　目　次

図版１　１　北側調査区全景（東から）　２　南側調査区全景（東から）　３　SB001（東から）
図版２　１　北側調査区北壁土層断面　２　SK019土層断面（南から）
図版３　１　SK020完掘状況（南から）　２　その他の出土遺物

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

平成23年７月19日付けで、福岡市教育委員会に対し、福岡市早良区原７丁目1190番１における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会が提出された（事前審査番号：23－２－359）。

これを受けて教育委員会文化財部埋蔵文化財第１課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である原遺跡に含まれていることから、同年８月11日に確認調査を実施し、建設予定地の地表下約80㎝において土坑・溝・ピット等を確認した。この試掘成果をもとに両者で協議を行った結果、共同住宅建設部分については基礎工事が埋蔵文化財への影響を回避できないことから、建物建築面積966㎡を対象とした記録保存のための本調査を実施することとなった。

その後、平成24年１月10日に福岡市長を受託者とする埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、１月23日より発掘調査を、平成24年度に整理・報告書作成を行うこととなった。

発掘調査から報告書作成に至るまで、関係者各位には多大なご協力とご理解を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

２．調査の組織（平成23年度）

調査主体：福岡市教育委員会
調査総括：埋蔵文化財第２課長　田中壽夫
同課調査第２係長　菅波正人
調査庶務：埋蔵文化財第１課管理係　古賀とも子
事前審査：埋蔵文化財第１課事前審査係長　宮井善朗
同課事前審査係主任文化財主事　加藤良彦
同課事前審査係文化財主事　木下博文
調査担当：埋蔵文化財第２課調査第２係　福薗美由紀
調査作業：安部みゆき　尾崎泰正　栗下純也　齋馨純子　瀬戸啓治　高瀬州　高瀬美代子　高橋茂子　田中昭子　永井ゆり子　西口キミ子　旗生勝介　廣瀬公則　森弘品子　山田ヤス子　脇山千代美

整理・報告書作成（平成24年度）

主　　体：福岡市教育委員会
総　　括：経済観光文化局埋蔵文化財調査課長　宮井善朗
同課調査第２係長　菅波正人
庶　　務：埋蔵文化財審査課管理係　古賀とも子
担　　当：埋蔵文化財調査課第２係　福薗美由紀

Ⅱ．遺跡の立地と環境

北に玄界灘を臨み、南に背振・三郡山系がひかえる福岡市には、西から今宿、早良、福岡、糟屋といった４つの平野が拡がっている。今回報告する原遺跡は、沖積扇状平野である早良平野の中央を流れる室見川中流の東岸に位置し、金屑川と油山川に挟まれた標高６～７ｍの低位段丘上に拡がる遺跡である。周辺には多くの遺跡が存在する（第１図）。近隣の遺跡としては、油山川を挟んで東側に位置する原東遺跡、金屑川を挟んで西側に八手状に拡がる有田遺跡群がある。原東遺跡では弥生時代前期の環濠、中期の甕棺墓が検出され、有田遺跡群においては、弥生時代初頭の拠点集落や古墳時代後期から奈良時代にかけての群衙関連施設が認められる。

原遺跡は、古地図やこれまでの調査成果、現在の水路等から、南北に延びる２つの微高地とその間に挟まれた低地で形成されていることが推定される。今回調査を行った31次調査地点は、北側で行われた１次調査の成果などから低地であると考えられていたが、今回の調査の結果、微高地Ａの西端に位置し、調査区の西側に向かって緩やかに傾斜していくことがわかった。

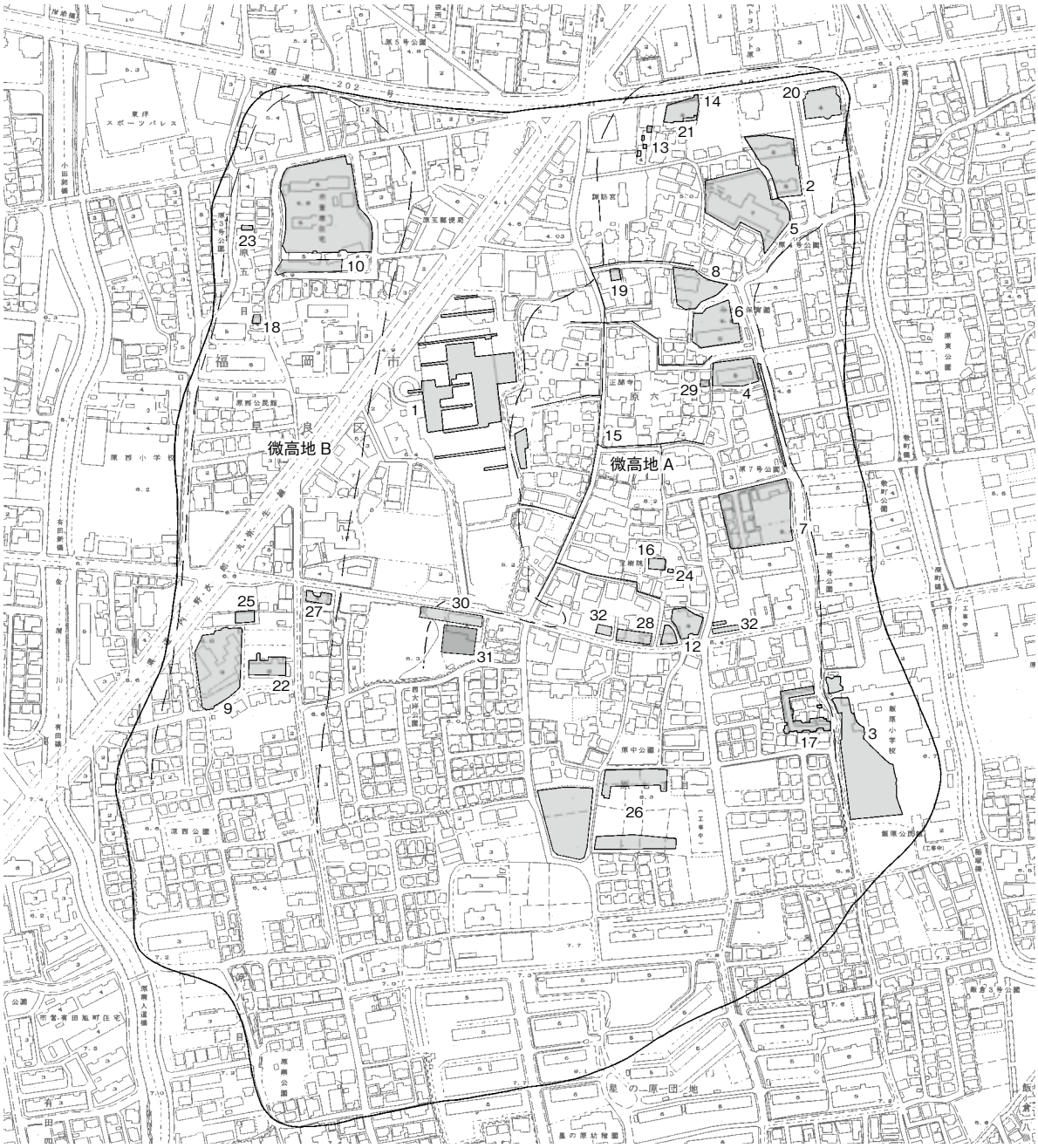
平成24年度までに、原遺跡では32次の調査が行われ（第２図、第１表）、旧石器時代から中近世に至るまでの遺構・遺物が確認されている。縄文時代は明確な遺構は確認されていないが、石鏃等の石器が出土している。弥生時代から古墳時代前期かけては、竪穴住居や貯蔵穴などの集落跡や甕棺墓地が見られる。古代の遺構は少ないが、10次調査北端で検出された溝は条里の東西方向に一致し、有田遺跡群の溝と繋がる可能性が指摘されている。その後の中世前半においては掘立柱建物や井戸、輸入陶磁器が多く見られ、中世後半には方形区画溝に囲まれた屋敷地が認められるようになる。

1．原遺跡
2．原東遺跡
3．飯倉遺跡
4．野芥遺跡
5．有田遺跡群
6．次郎丸高石遺跡
7．田村遺跡
8．四箇遺跡
9．吉武遺跡群
10．橋本一丁田遺跡
11．拾六町平田遺跡
12．野方遺跡

第１図　原遺跡と周辺遺跡（1/50,000）

第１表　原遺跡発掘調査一覧

次　数	年度	主　な　遺　構	報　文
第１次	S50	杭列（弥生早～中期）、水田（古代）、溝（中世後期）	市報492集
第２次	S54	溝（弥生中期）、溝・建物・井戸(中世前期）	市報544集
第３次	S54	溝（弥生前～中期）、溝・杭列（古墳前期）	市報71集
第４次	S55	土坑（中世前期）	市報64集
第５次	S56	集落跡（弥生中期、古墳）	
第６次	S57	土坑（古墳前期）、建物・溝・井戸（中世前期）	市報213集
第７次	S57	井戸・土坑（中世前期）	『文化財だより』３
第８次	S59	甕棺墓（弥生中期）、溝（古墳）、井戸・土坑墓（中世）	
第９次	S59	竪穴住居・溝（弥生）、溝（古墳前期）、館跡（中世後期）	市報140集
第10次	S62	建物・溝・井戸（中世前期）	市報215集
第11次	S63		市報266集
第12次	S63	掘立柱建物・溝・井戸（中世後期）	市報233集
第13次	S63	竪穴住居（弥生中期）、土坑(中世前期）	市報233集
第14次	H1	竪穴住居･土坑（弥生中期）、建物･柵列･溝･井戸（中世前期）	市報295集
第15次	H1	溝・土坑（中世前期）	市報266集
第16次	H3	竪穴住居･建物･貯蔵穴（弥生早期）、建物･井戸（中世後期～）	市報337集
第17次	H7	土坑（弥生前期）、竪穴住居（古墳）、溝(中世）	市報444集
第18次	H7	建物・溝（古代～中世）	『年報』10
第19次	H8	溝・井戸・土坑（中世前～後期）	市報917集
第20次	H11	竪穴住居・建物（弥生中期）、溝（中世前期）	市報688集
第21次	H12	建物・井戸(中世）	『年報』15
第22次	H15	溝･土坑（弥生中～後期）、溝（中世前期）、建物･溝（中世後期～）	市報818集
第23次	H18	土坑(中世前期）	『年報』21
第24次	H20	溝（中～近世）	『年報』23
第25次	H21	土坑（弥生後期）、建物・溝（中世後期）	市報1129集
第26次	H22	竪穴住居･建物･貯蔵穴（弥生早期）、建物･井戸･柵列（中世前期）	市報1167集
第27次	H22	溝（中世後期）	市報1168集
第28次	H23	竪穴住居・土坑（弥生前期）、溝・井戸（中世）	市報1199集
第29次	H23	溝・土坑（中世）	市報1200集
第30次	H23	溝（弥生）、掘立柱建物（中世）	市報1199集
第31次	H23	溝（弥生）、掘立柱建物（中世）	市報1201集
第32次	H24	土坑（弥生・古墳）、溝（中世前半・近世）	



第２図　原遺跡調査区位置図（1/6,000）

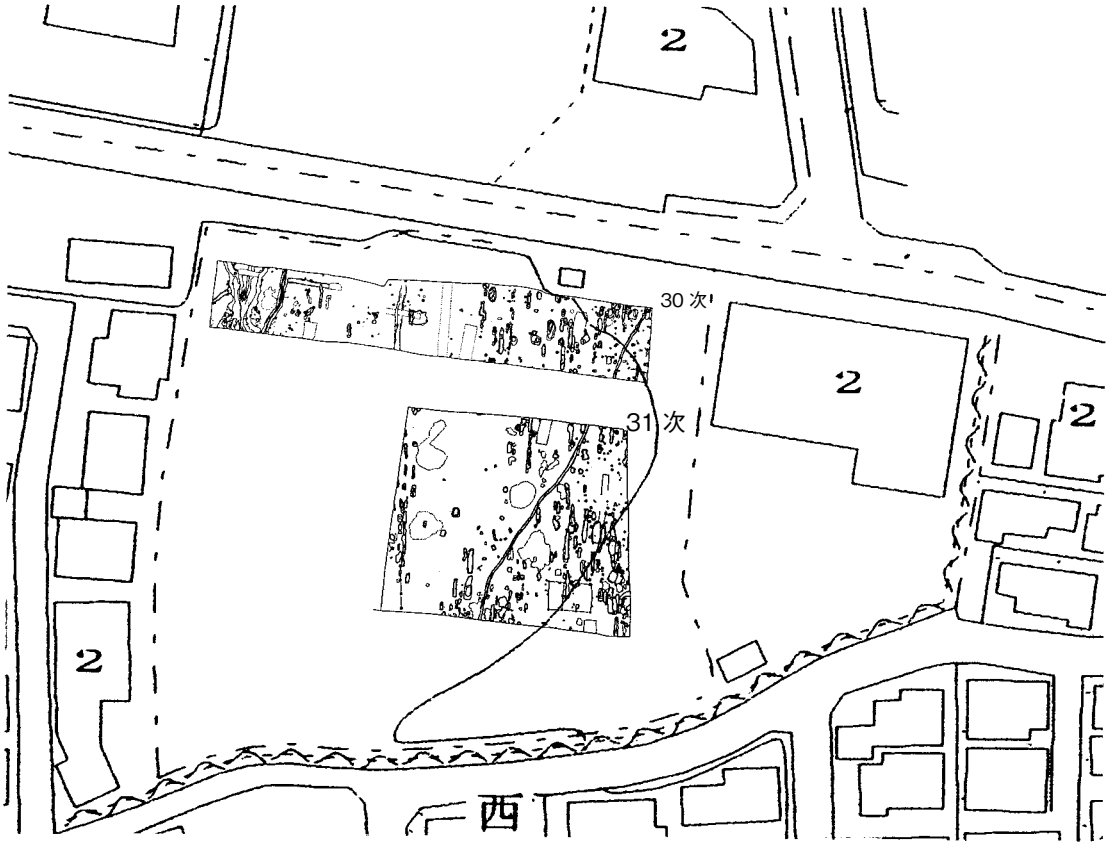
Ⅲ．調査の記録

１．概要

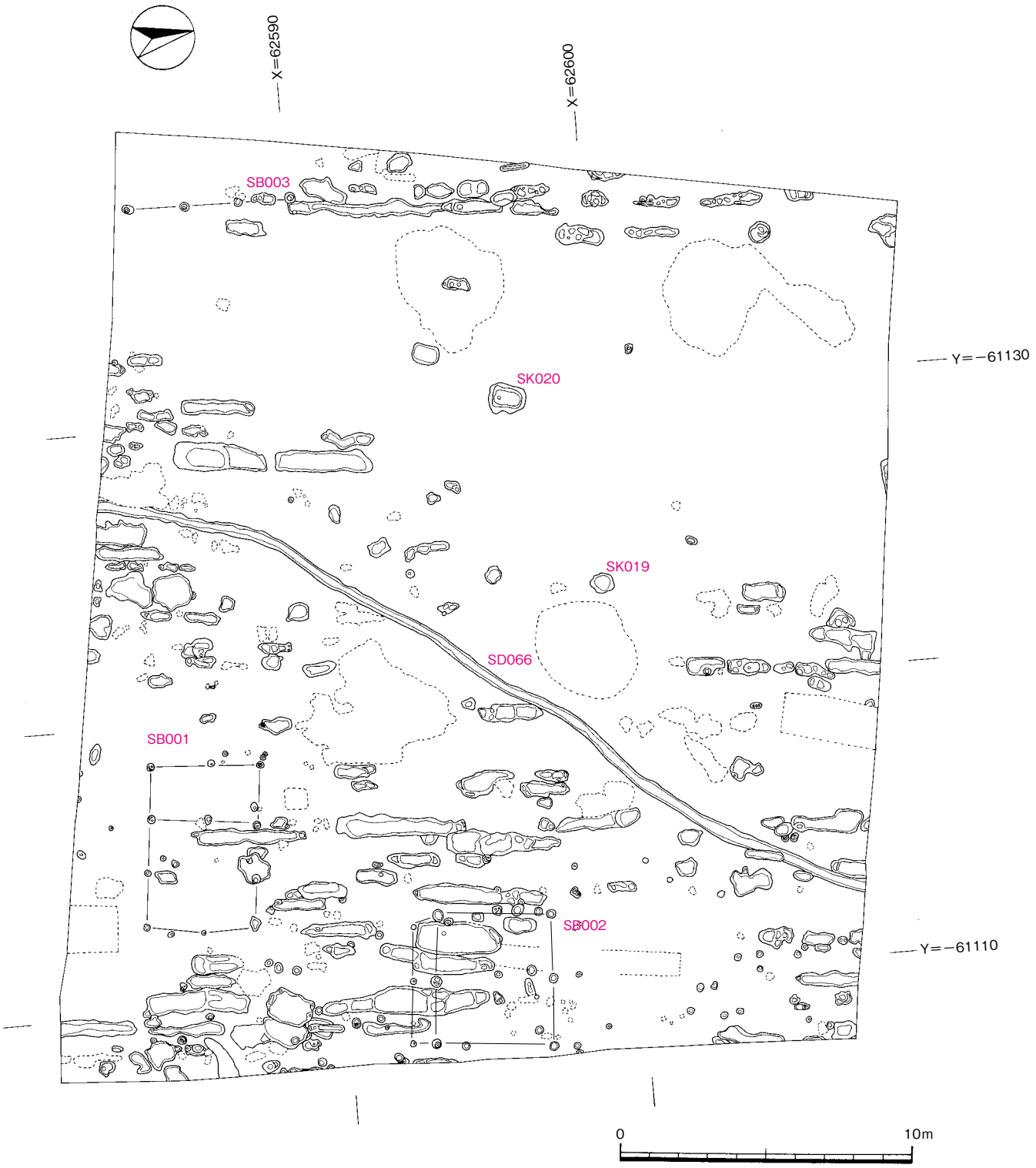
今回報告する31次調査地点は遺跡のほぼ中央部に位置し、遺跡内の微地形上では微高地Ａの西端に立地する。調査前は駐車場として使用されており、標高約６ｍの平地であった。隣接する北側では30次調査、西側では９・22・25・27次調査が実施されている。

遺跡の層序は、約80㎝の表土下に水田耕作土と考えられる鉄分混じりの灰褐色粘質土、灰黄褐色粘質土が堆積する。さらにその下のシルト層において遺構を検出した。このシルト層は東側では黄褐色、西側では青灰色を呈する。また調査区西側には、シルト層上面に黒褐色粘質土の包含層が南北方向に薄く堆積しており、石鏃２点が出土した。遺構検出面の標高は5.1m～5.3mで、東側から西側にかけて緩やかに低くなっている。南北方向では、顕著な高低差は見られなかった。

調査は平成24年１月23日に着手した。廃土置き場の関係から、調査区を北側と南側に分けて調査を実施した。まず調査区の北側部分の表土剥ぎを重機で行い、調査区周辺の整備、調査区内杭設定等の後、26日から遺構検出を開始した。その後、遺構掘削や遺構の実測、周辺測量、遺物の取り上げなどの作業を進め、高所作業車による写真撮影終了後、２月15日・16日に重機で調査区の反転を行い、南側の調査を開始した。北側同様、人力掘削の後、実測等記録保存作業を行い、高所作業車による写真撮影ののち、３月７日に発掘器材等を撤収し、すべての調査を終了した。調査実施面積は830㎡である。



第３図　原遺跡第31次調査区位置図（1/1,000）



第４図　遺構配置図（1/200）

２．遺構と遺物

31 次調査では、溝（SD)、掘立柱建物（SB)、土坑（SK）を検出した。以下その内容について遺構毎に述べる。遺構番号は、原則として調査時の遺構番号を用いている。

１）溝（SD066　第４図）

南西から北東方向に向かって延びる溝を１条検出した。さらに調査区の北側・南側にも延びる。幅は 25 ㎝～ 36 ㎝、深さは 15 ㎝～ 18 ㎝で、断面はＵ字状～逆台形状を呈する。埋土の堆積状況は、底面の一部分において灰黄粗砂が見られるものの、基本的にはやや鉄分混じりの暗褐色粘質土の下に、暗褐色粘質土に灰色粘土ブロックが混じった埋土であり、水が流れていた形跡は観察できない。溝内からの出土遺物はないが、北側に隣接する 30 次調査においてこの溝の延長部分が検出されており、その中から弥生時代の土器小片が数点出土している。

２）掘立柱建物（SB001・002・003）

ピットの多くが調査区の東側で検出され、２棟の建物を復元することができた。また調査区西側では建物の一部が検出された。

SB001（第５図）　調査区南側で検出された。２×３間で、１間の長さは 1.8 ～ 2.1m。SP180 の底面には自然石を用いた扁平な根石が据えられていた。ピット内から遺物の出土はない。

SB002（第５図）　調査区東側で検出された。１×２間で、１間の長さは 2.2 ～ 2.4 m。南側に庇が付く。ピット内から遺物の出土はない。

SB003（第５図）　調査区西端でピット４つが連なって検出された。掘立柱建物跡の一部であると考えられ、さらに西側に拡がると見られる。１間の長さは 1.7 ～ 1.9 m。ピット内から遺物の出土はない。

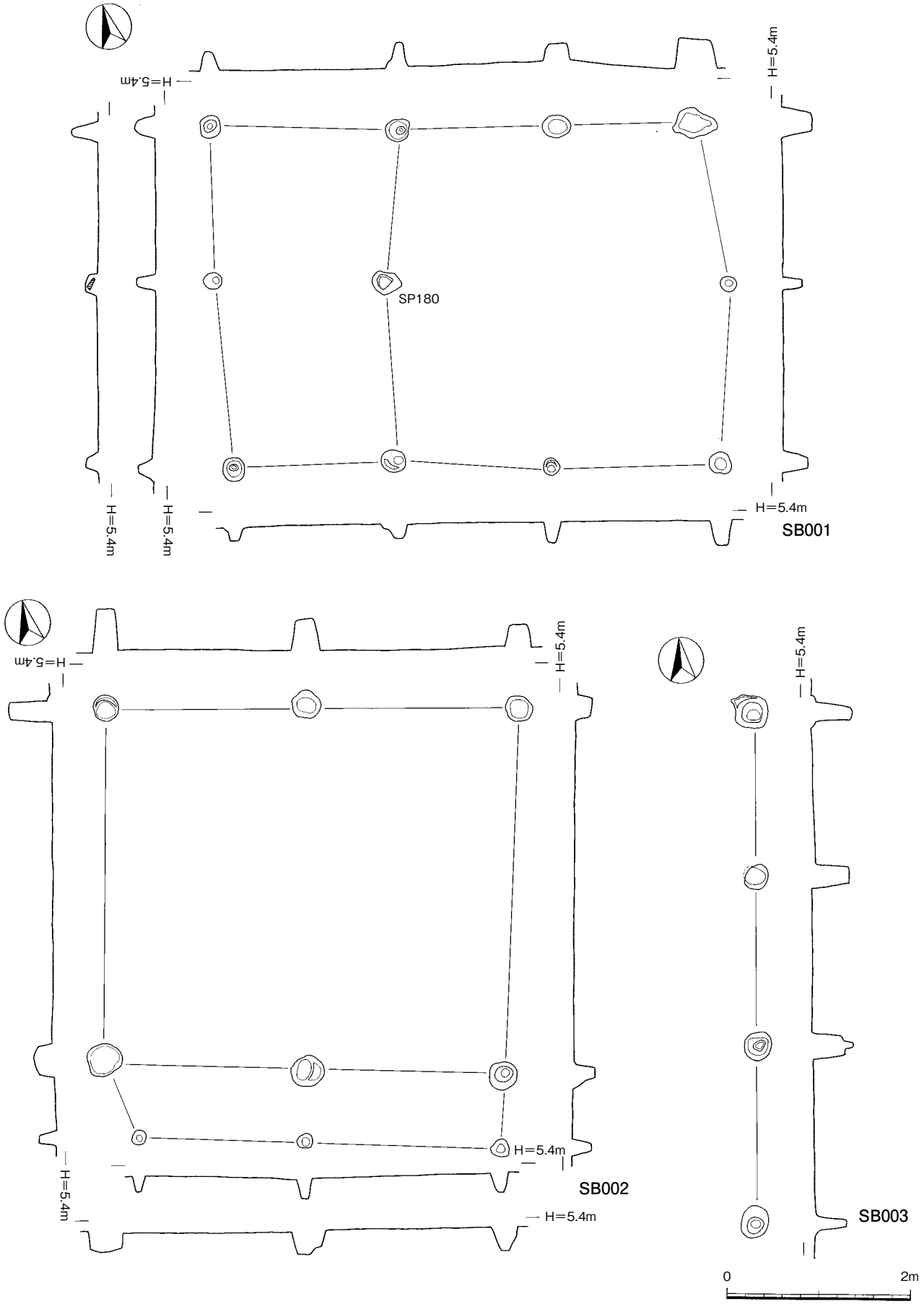
３）土坑（SK019・SK020）

SK019（第６図）　調査区中央部分で検出された。短径×長径＝ 68 × 77 ㎝、深さ 47 ㎝の円形の土坑である。断面はＵ字状で、埋土は黒褐色粘質土に黄褐色粘質土がブロック状少量混じる。埋土中から、底部糸切りの土師器小皿（第６図１）が出土した。

SK020（第６図）　調査区西側、黒褐色粘質土の包含層下で検出した。短径×長径＝ 88 × 124 ㎝、深さ 66 ㎝の長方形の土坑である。壁はほぼ垂直に掘り込み、床面は平坦である。床面南側に径 10 ㎝程のピットをもつ。遺構内から遺物の出土はない。原遺跡 17 次調査で同様の遺構が数基検出されているが、出土遺物はなく時期は不明である。

４）その他の出土遺物

２は甕の口縁部である。幅１㎝程の刻み目のついた突帯が貼り付けられている。３は甕の底部である。全体的に摩耗している。胎土に１㎜程度の白色粒を多く含む。４は瓦質の擂鉢である。内外面ともに摩耗しており、擂り目の単位は不明である。５は瓢形の茶入れである。黒釉が外面と口唇部内面に一部かかる。高取焼か。６・７はいずれも調査区西側に拡がる黒褐色包含層中から出土した。黒曜石製の石鏃である。包含層から出土した遺物はこの２点のみである。６の鍬形鏃は、先端と脚部を一部欠損している。表裏とも両側面から細長い押圧剥離を施す。1.8 ｇを量る。７の二等辺三角形を呈する抉りの深い石鏃も、表裏とも両側面から細長い押圧剥離を施す。1.75 ｇを量る。

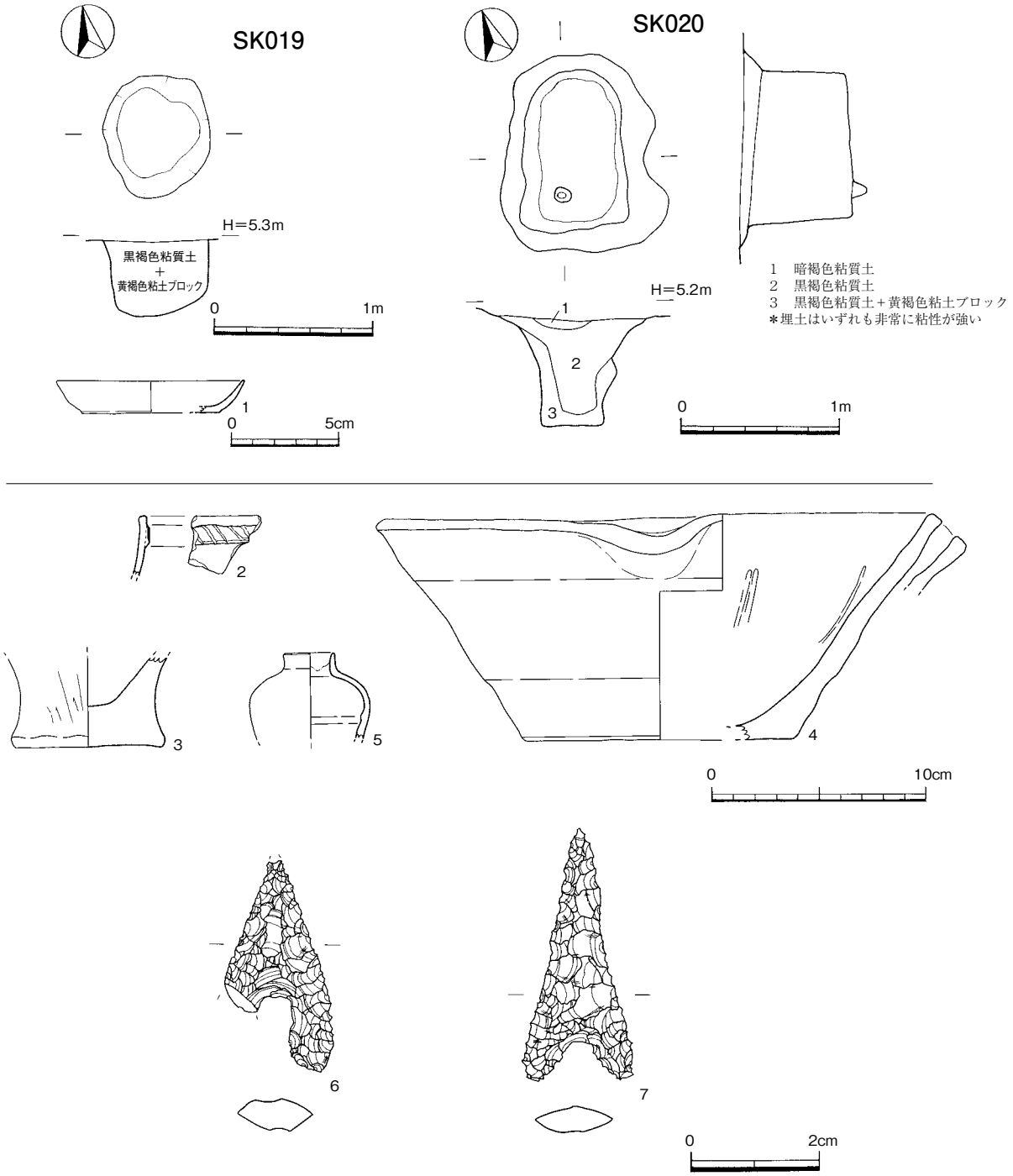


第５図　SB001 ～ 003 実測図（1/60）

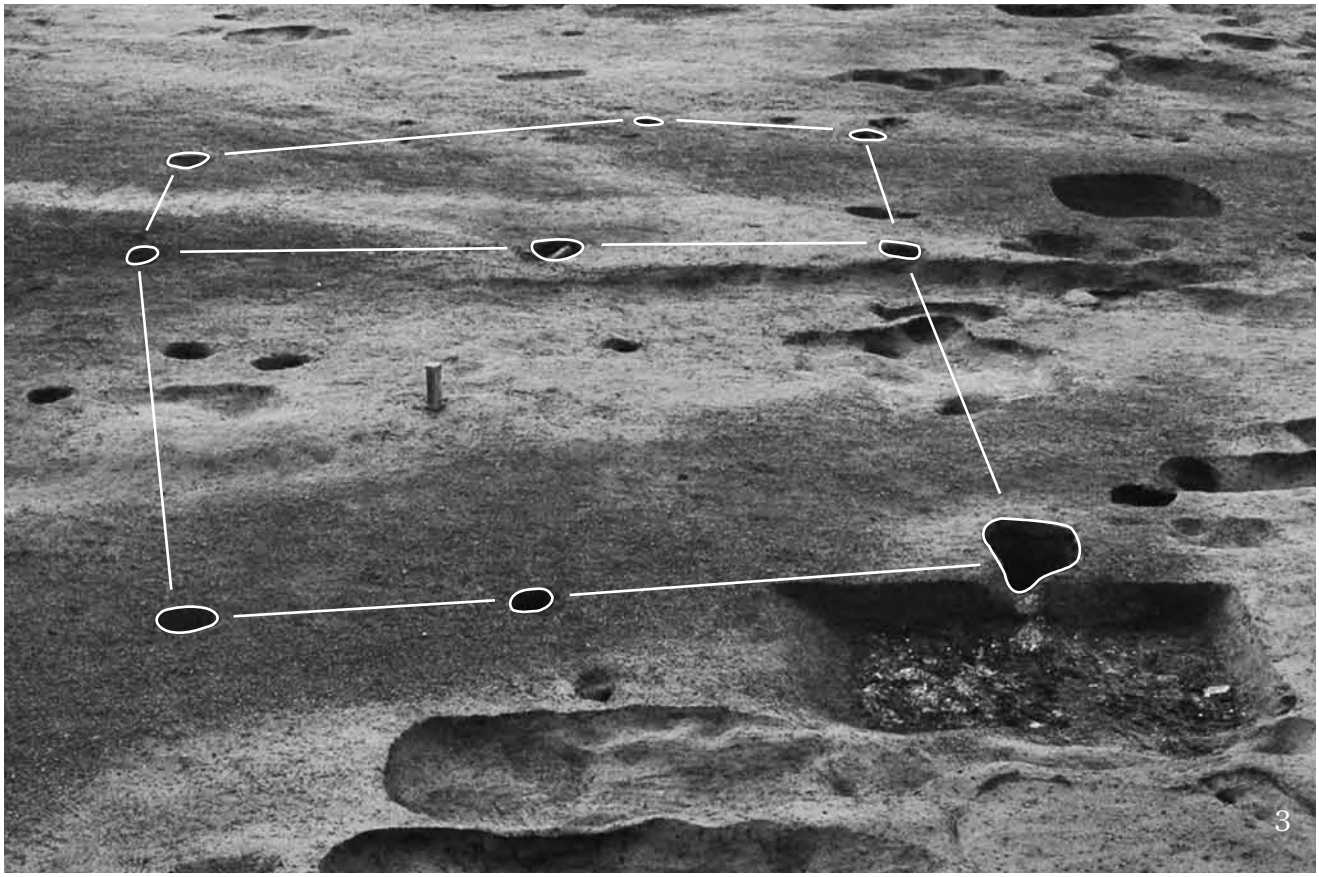
３．結語

今回の調査では、縄文時代から近世までの遺物・遺構を検出した。時期を特定することのできる遺構は少ないが、これまでの調査成果で周辺に中世の集落が展開していたことが判明していることから、掘立柱建物跡や土坑は中世に該当するものではないかと考えられる。また、縄文時代・弥生時代の遺物も出土しており、周辺で当該期の遺構が今後検出されることが期待される。

今回の31次調査地点は、北側に位置する１次調査地点が低地であることや、土地条件図、航空写真、現在の水路の位置等から低地であると推定されていたが、今回の調査で微高地の端に位置することがわかったことも調査成果のひとつと言えよう。



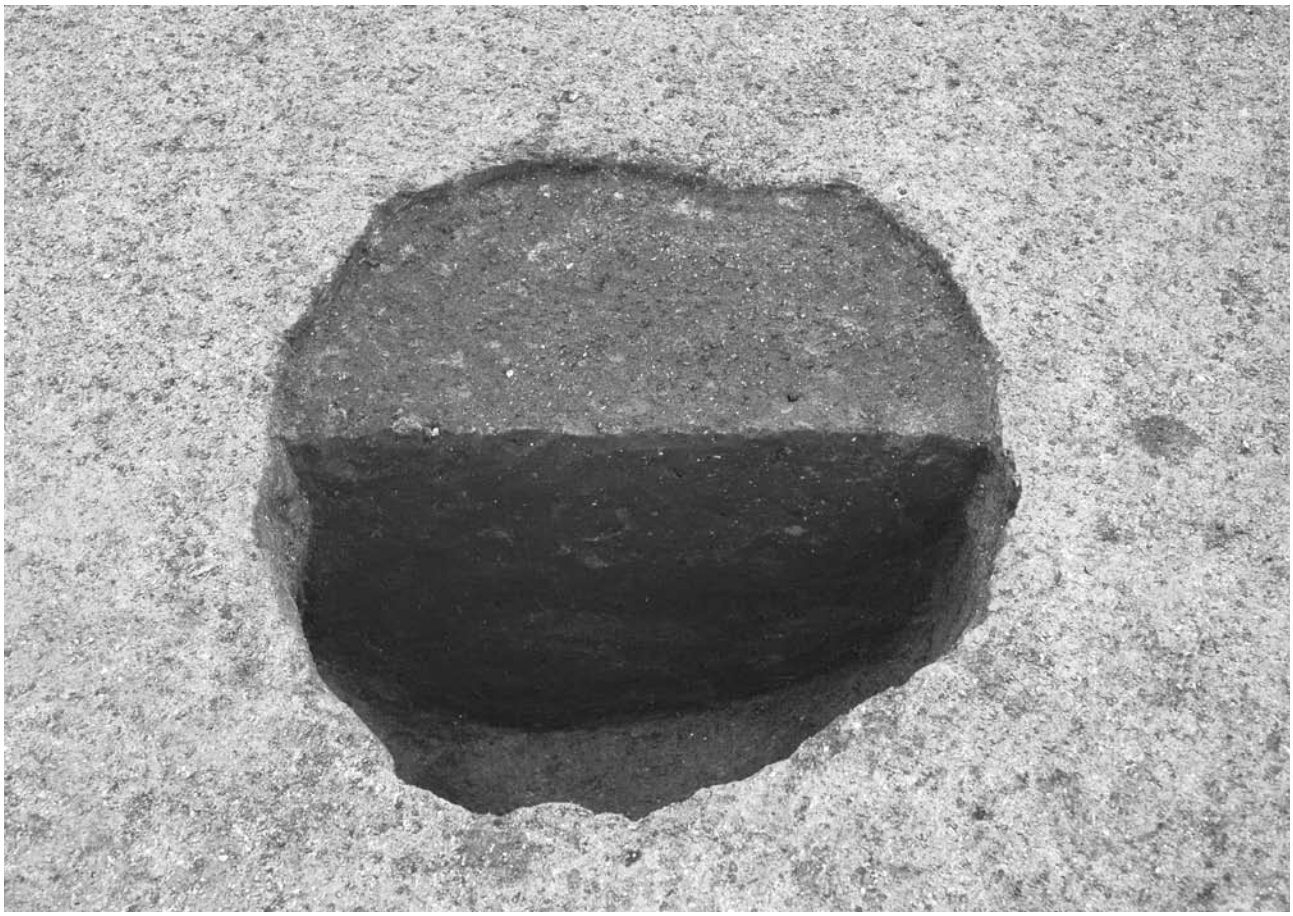
第６図　SK019・020 実測図（1/40）および SK019・その他の出土遺物実測図（1/3、1/1）



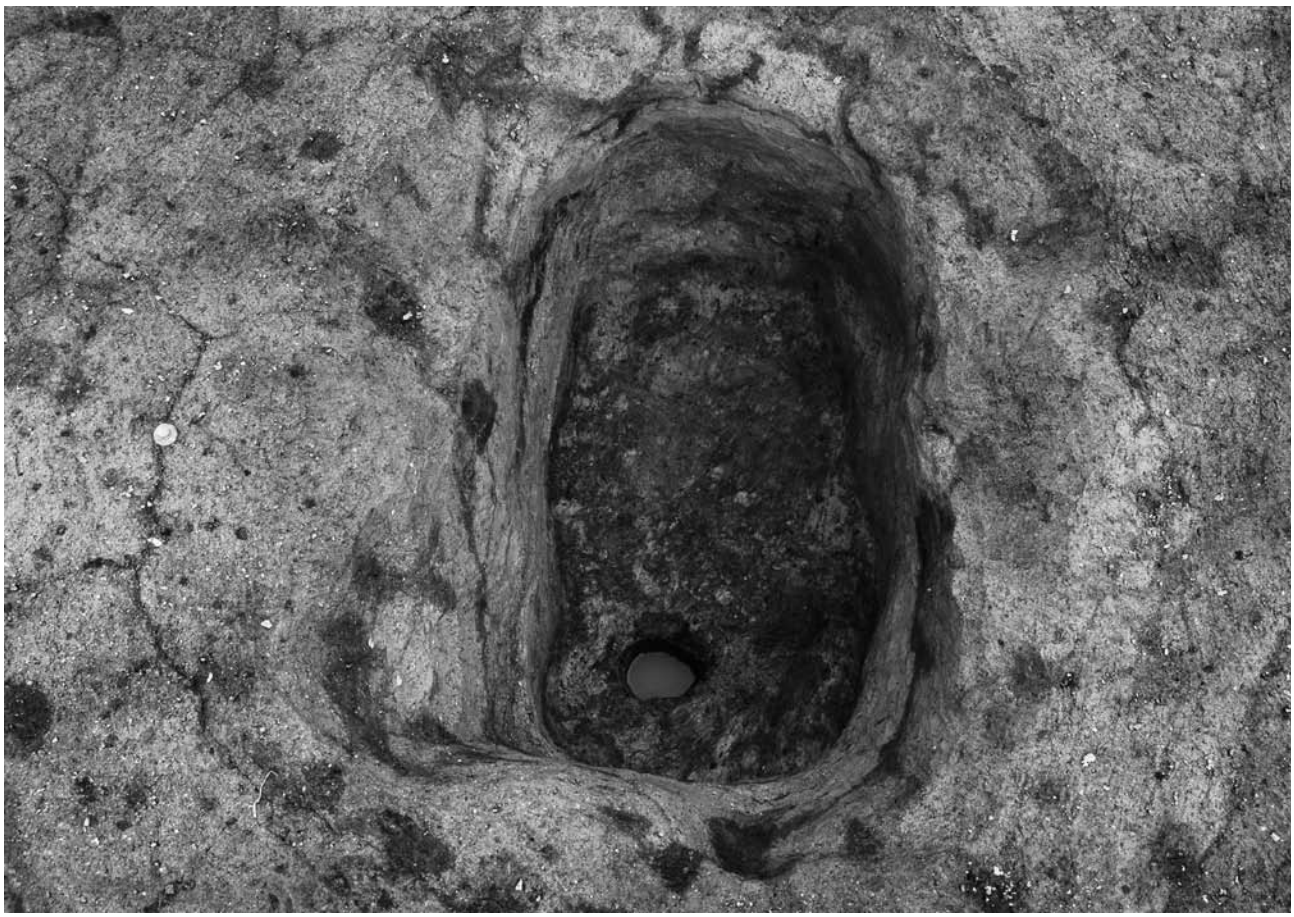
1　北側調査区全景（東から）　　2　南側調査区全景（東から）　　3　SB001（東から）

図版２

1　北側調査区北壁土層断面



2　SK019 土層断面（南から）



1　SK020 完掘状況（南から）

2　その他の出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	はらいせき 18
書名	原遺跡 18
副書名	―第 31 次調査報告書―
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1201 集
編著者名	福薗美由紀
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810-8620　福岡市中央区天神１丁目８番１号
発行年月日	2013 年 3 月 22 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
原遺跡（はらいせき）	ふくおかしさわらく 福岡市早良区 はら７ちょうめ 1190 ばん 1 原７丁目 1190 番 1	40130	020311	33° 56′ 29″	130° 34′ 14″	20120123 ～ 20120307	830	共同住宅建設 記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原遺跡	集落	弥生時代・中世	土坑・溝・柱穴	弥生土器・土師器・陶磁器	縄文時代・近世の遺物も出土

要約	今回の調査では、隣接する 30 次調査と同様に掘立柱建物跡、溝、土坑といった弥生時代～中世にかけての遺構が確認された。また、縄文時代早期の石鏃が出土した。本調査区内では当該期の遺構は確認されていないが、今後の周辺調査で縄文時代の遺構が確認される可能性がある。

はらいせき
原遺跡18

―第31次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1201集

2013（平成25）年３月22日発行

発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目８番１号
（092）711－4667

印刷　有限会社　アドプリ
福岡市博多区山王２丁目5－27
（092）432－7007